



# おちほ

第 9 号  
1982年7月1日発行  
社会福祉法人 椎の木  
落穂寮  
落穂寮長 増田正司  
増田正司  
発行

## 「糸賀一雄著作集」発刊に思う

落穂寮長 増田正司

待望の「糸賀一雄著作集」Iが出版された。ほんとうによかったと喜んでいますが。是非たくさんの人たちに読んでもらいたいとお願いたしました。

戦後のわが国における知恵おくれの人たちの幸せを守る凡ゆる分野の指導者で、常に第一線で献身的な福祉の実践を続けられた初代の近江学園長糸賀一雄先生が急逝されたのは、

昭和43年9月18日のことでした。それからもう13年が経ちました。

先生はその思索と実践から「福祉の思想」を深められ、それを確固たるものにされ「この子らを世の光に」と説かれ、知恵おくれの人たちが世の光であると叫びつづけられたのでした。

この落穂寮も、先生によって生まれたものです。私たちは今なお先生を身近かに感じて、面影の先生から指導をいただいている気持であります。

没後、先生を誰かが「精神薄弱児の父」と言いました。先生の人柄や業績におくられた言葉でしょう。

施設の若い人達が集まった県の研究会に招かれ、「子どもたちの良い先生になってください。子どもたちが安心して過ごす施設を作ってください」と諄々と説かれ、「この子らを

世の光に」と訴えながら演壇に倒れしかもなお力をふりしぼって立上り講義を続けられようとされました。翌くる日入院先で帰らぬ人となってしまわれました。その様子が没後出版された「愛と共感の教育」の末尾に述べられています。私はこの稿を書くに当ってそこを読み返して、涙が溢れて続けて読むことができませんでした。

お元気な折、書き残されたもの、お話しを書きとめたものなどをまとめて、著作集を作ろうという声が出て、著作集を作ろうという声が出て、後になりましたが、残された仕事の継続や整理に手がとられ未だ時期尚早であると延ばされたわけです。十

三回忌の集まりがもたれた席で刊行の声が強くなり「糸賀一雄著作集刊行会」が発足しました。びわこ学

園長岡崎先生が代表に、遺作の整理がかつて近江学園の研究部で活躍され今は京大に帰られた、田中先生の手で精力的に進められました。近江学園に残された資料や写真が当然の

消息を伝えて誌面を飾ることになりました。

先生の業績は数多く超人的と言わざるをえません。その事業の一つに書き物がありました。よくもこれだけの質と量の書き物を残されたこと驚

嘆いたしました。その論説は縦横無

尽の広さと深さをもって迫ってきます。説得力をもった凡ての人を惹きこんでしまう魅力ある文章です。施設のこと、福祉のことに触れながら人生を語り、人間の平和を説き宇宙の哲理に発展します。人間の価値が光にあり、知恵おくれの子どもたちの僅かであるがきらめく光を見つけ、この光こそが世の光であると書かれて

近江学園での二十二年に歩んだ、人生の一大事に処する心や、日本の歴史に、人類の歴史に裨して新しい社会の創造を目指した情熱が展開していきます。

重症心身障害の寝たきりの子どもたちや、社会に巣立っていく子どもたち、どれも障害を背負って生きていく者たちへ限りない無私の愛、神

の愛を「祈り」にこめて、発達の保障を求めつづけられた先生の生命の燃焼は「著作集」の中に再び甦って、読む人の心をゆさぶる勇氣と力のエネルギーを与えることになるでしょう。

自らの力であろうと他から援助されようと、我等が知恵おくれの人たちの生涯の幸せと生き甲斐を、「著作集」の中で確認していきたいものと考えます。

## 新しい四人です。よろしく！

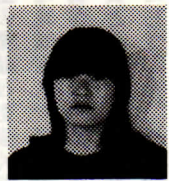


三好文字

## 笑顔のある生活に

短大の講義や施設実習で精神薄弱児の施設に努めたいと思っていた私が、落穂寮で働けるなんてしばらくは信じられない程でした。憧れの保母になれた事がとても嬉しいです。

私は京都文教短大出身で、二年間学寮に入っていました。兄弟がいないので三百人余りの共同生活ができた事は、貴重な経験になりました。高校からやっていた合唱クラブに入部し、そこでもチームワークの大切さを教えてもらったように思います。この二年間は自分にとっては大学四年間にも相当するくらい忙しく落ち込みの連続でした。今思い出しても夏休み親に大変心配させたことをすまなく思います。祖母からよく言われるように少し堅すぎるかもしれませぬ。短大に入ってだいぶとれたよ



柴田加代

## 心に残るしいたけと私

うにも思うんですが……。それが私の個性かも。大声で笑い冗談を言っている人を見てかと思えば、シュンとなる。いったいどちらが本当かと言いたい程です。好きな事はやっぱり大きい声で歌うこと、繕い物、食べることも大好き。スポーツは下手ですがするのは好きです。これといって特技がないのが残念ですが、やってみようという気はあります。

ただし、今のところ運転免許をとること、機械いじりは興味がありません。そのうち出てくれば……。思っているのですが、落穂にいます。車があればなあ、と思います。本当に大変な仕事だと思えますが希望する所に就職できたので益々頑張りたいです。一人一人によく接して良いところを少しでも伸ばしてあげられたらと思います。この職業のむずかしさを身をもって感じる毎日です。自分の弱さに負けないで、笑顔のある生活にしたいです。何事も心しいですから。

私が初めて落穂寮にきたのは、昨年の暮もおしせまった十二月二十二日のことでした。クリスマス行事や、子ども達の帰省のうち、に四日間の実習も終わりましたが、この時にはまだこれから先落穂で働くんだという実感がわかきませんでした。それが四月も終り、はや一カ月がたとうとしています。一人一倍頼りない私が、こうして社会人の仲間入りをしているなどは、信じられない気持ちです。私の家は野洲の南校ですが、近くにびわこ学園があるので、天気の良い日は、歩行に行く学園の人達と出会います。でも野洲の方へ引越してくるまでは、障害者の人達と接する機会もあまりなかった。そこで、変に緊張してぎこちない態度をとっていたような気がしています。

私が初めて落穂寮にきたのは、昨年の暮もおしせまった十二月二十二日のことでした。クリスマス行事や、子ども達の帰省のうち、に四日間の実習も終わりましたが、この時にはまだこれから先落穂で働くんだという実感がわかきませんでした。それが四月も終り、はや一カ月がたとうとしています。一人一倍頼りない私が、こうして社会人の仲間入りをしているなどは、信じられない気持ちです。私の家は野洲の南校ですが、近くにびわこ学園があるので、天気の良い日は、歩行に行く学園の人達と出会います。でも野洲の方へ引越してくるまでは、障害者の人達と接する機会もあまりなかった。そこで、変に緊張してぎこちない態度をとっていたような気がしています。

それがいつのことだったかは忘れたけれど、自分達で栽培しているしいたけを売りに、一人の女の子と先生が家に来たことがあります。

した。先生が「子どもが地域の人達と接する機会をつくるため、しいたけを売りにまわっています」といわれました。その時女の子が私にしいたけを渡してくれたのですが私は、何と聞いていいかわからずただありがとうとしか言えませんでした。それでも私には女の子がとてうれしそうに見えたのは私の自己満足でしょうか？

でもこの時は将来施設で働こうというところまで考えていませんでした。だから中学・高校と平凡な学生生活を過ごしました。短大に入ってからも通学に時間がかかったためサークル活動などに参加することも、めったにありませんでした。こんな私が施設で働くことを考え始めたのは学校からの実習を終えてからです。障害者(児)の人達とは実際に接してみても初めてその人たちの良さがわかる気がします。だから私はせっかく落穂にきたのだから、子ども達の良さを少しでもみつけていけたらと思っています。

そのためにもまず私自身ががんばらなければならない点がたくさんあるようにおもう今日この頃です。

そのためにもまず私自身ががんばらなければならない点がたくさんあるようにおもう今日この頃です。



須田豊美

自分らしくひたすらに

私が落穂寮にきてからの生活も一カ月は過ぎようとしています。私にとってこの一カ月というのは、いろいろな事がたくさんあったし覚えなくてはいけないことばかりで、とても長く感じました。する事全て初めてで、とまどってばかり、「もっとしっかりしなくては！」とあせってみたり、「もうだめだぁ」とおちこんでみたり、気持ちの変化の激しくなったこと、激しくなったこと。自分でもあれだけコロナかわれるなんて不思議なくらいです。でも、ようやく慣れてきたのか、気持ちも落ち着き、生活にもちよっぴり余裕がでてきたこの頃です。

い雲囲気だからです。まだ一カ月しか経っていないのに、私のドジの数はかぞえきれない程、廊下ですべってこけたり、こけそうになつた回数、子供に押されてホールでこけたこと回数、その他たくさんあります。また、ソフトボールをすれば、ボールはとれない、トンネルはする、本当に自分でもなさけないくらいです。でも落穂で生活してたら少しは直るかなあ：と思つてます。ドジの私がどこまでついでいけるのか不安ですが、自分なりに頑張つて、何事にも一生懸命にとりくんでいきたいと思つてますのでよろしく願いします。

何か変な事ばかり書いてしまいました。これを読まれた方は、何て頼りない子だろうと思われたかもしれません。これが私の実態です。隠しようのない事なのです。でも、決して、いいかげんな気持ちでやっているのではありません。その所わかってもらえよう私なりに努力していきたいと思つてます。これならこの仕事を続けていくうえで私は、「自分らしく、ひたすらに：：」という気持ちで頑張ろうと思ひます。



寺谷八重子

どんくささでせまります

私が社会人になって、またここ落穂寮で働かだして約一カ月が過ぎました。まだ自分自身緊張しており、毎日バタバタ過ぎていくといった感じです。

私は今年の今頃は施設の職員になるとは全く考えておらず、普通のOLになるつもりでした。しかし昨年の夏、精神薄弱児(者)のキャンプに参加してから私の考えも変わってきたのです。そのキャンプは海で泳ぎ、キャンプファイヤ、花火大会などごく普通のキャンプでしたが、私にとっていろいろな意味で得たものが多かったのです。それは平々凡々な短大生活で唯一の印象深いものとなりました。そして短大の恩師から「君も精神薄弱児(者)の施設で働いてみないか」といわれ、私の出身が滋賀県という事もあって、落穂寮を紹介していただき、今ここで働いているのです。

最初この勤務体制を聞いた時変っているなと思ひましたが、そ

れよりも私にとって六時三十分に出勤することは大変なことでした。まだ勤務に慣れないで疲れるからでしょうか、それとも春だからでしょうか、ついねむくなり、私にとって睡眠不足は何よりも耐えがたいことなのでいつも早寝早起の鉄則に従っています。

早起きした後は毎朝子ども達と一緒にトレーニングをやるのですが、それについていけないこともあり、学生時代にもっとしっかり体育をやっておけばと痛感するこの頃です。

またここへきて私の「どんくささ」は発揮してきて、時計を服と一緒に洗濯してしまつたり(この時計はダメになりました)部屋の鍵を中に置いたままロックしてしまつたりと数えだしたらきりがありません。

このようなことを繰り返している毎日ですが、早く仕事を覚え、自分自身にゆとりができたなら、いろいろやってみたいと思つていきます。運動神経も鈍く、どんくさい私ですが、これからもどうぞよろしく願ひします。

変っているなと思ひましたが、そ

## いっしょのひろば

### 三学期の行事をふりかえって



親子合同マラソン大会

前日の雨の為、ただでさえ歩きにくい道に水たまりができ、それをなんとか走れる状態に直し、行なわれたマラソン大会であったが、当日も天候は、上々とは言い難し、さて、スタート前、子どもらと一緒に我れ先にとスタート線上に並んだ父母さん達、なかなかの息込みである。「ドン」の合図と共に、全体がかなりのスピードで動き出した。(のように記憶しているが定かでない)これはすごい、感心していたが、これは、前半の話である。後半になると所々で大分熱の上がった顔をしたお父さん「

先生、やっぱ若いわ。」と声かけてくれるお母さん。「おーい、頑張れ」と子どもに声をかけたのも、実はお父さん、お母さん達への声援であった。なにはともあれ、皆それなりに完走(完歩?)し落穂にたどり着いたようであった。とにかく毎日、「いち、に、いち、に」と後を追われるように走っている子供達にとっては、のんびりと両親と一緒に走った事は、十分楽しい行事であったと思う。

最後のおでんの会食が一段と盛り上がり上っていた。「さあ、頑張るぞ」とはしを持って割込んで取るぞ。とはしを持って割込んで、だが、つかんだものがなんと他人のはしであったという。最後まで疲れっぱなしのお父さんがおられたそうです。とにかく皆さん御苦労様でした。(吉瀬)

#### 大熱演の学習発表会

昭和五六年度のしめくくりである学習発表会。

毎年、趣向をかえ、作品をかえ観る側も演じる側も真剣そのもの。この冬最後の雪なのか：。ち

ラチラと舞っています。始まる頃には止んで、まずまずの天候になりました。

父兄の方も、実習されたお姉さん達も、たくさん来てくれました。寮長の挨拶も終り、プログラム一番、B棟です。今日退寮していく佐藤真木子ちゃん、大野君、どんな夢を見ているのでしょうか。久保先生の五作目となる「夢」B棟も、客席も輝いて、にぎやかしい内に終了。

#### おひな祭りを終って

「わー、かわゆい。」「やっぱり女の子だネ。」などの言葉が飛びかかって、三月三日のおひな祭り行事が行なわれました。

女の子は全員、着物、スカート姿で、普段、見うけられない女らしさを見せてくれました。出し物は、「微笑がえし」「楽しいひな祭り」の曲に合わせての踊り、踊りの練習も、お風呂のない日を選んで特訓が続きました。(本当にかわいかったネ：)

また、職員の出し物は、ソーラン節で、大変、山下先生が頑張ってくださいました。本来なら、私たち保母も、着物でも着て美しい姿を見てもらうつもりだったのですが、どうもメンバーを見ている

昼食をはさんで、C棟「みくいあひるの子」子供中心で、盛りり上りも子供達でどんだんかえていく。なかなかの作品でした。

最後にA棟、渡辺先生の鬼がよかったなあ。「こぶとりじいさん」皆、大熱演で大受け。楽しい笑いに包まれました。

観客になった一人一人が、拍手をきちんとしてくれて、一団となつて、この会を、運んでくれたそんな、学習発表会でした。(森田)

と、「やっぱり力強い踊りの方がピツタリだ」と、いう誰かの言葉通りハッピー姿で登場したのです。(どう、たくましかったかな?)

これまた、山下先生の特訓で、私たち保母も子供たちに負けまいと頑張りました。

その他、実習生のお姉さんの出し物、高松先生をはじめとする六人組の何やらわからない出し物、おやつ(三色だんご、桜餅)が続き、無事に終わる事ができました。

これらのように「おひな祭り」行事はみんなの協力で楽しいひとときとなりました。御協力、ありがとうございました。来年の「おひな祭り」行事は今年以上のものでありませう：。：。：楽しみにしています。(杉田)

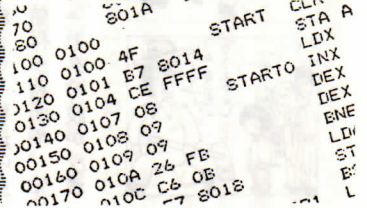
# うちの子あつまれ

## マキちゃん日記

今日、お茶碗を投げつけられてしまった。昼食の時のこと。「いただきます」マキをテーブルに近い碗、おかずに置き、自分の食事に、と思ったとたん。「コン」オット何か頭に当たったではないか。クソ、マキのやつよくも投げつけてくれたな。勝手にひとりで御飯食べられるのに甘えて。腹を立ててマキの前にまたお茶碗、おかずを置き、ジーとにらみつける。とマキもジーとにらみ返してくる。それと同時におかずを手でクネクネしている。クネクネするくらいなら食べれば良いやん。フン、また放つとくぞ、と思い、自分の食



## コンピュータについて



事に取りかかると、今度はおかすが頭上をかすめ後の戸にはりついた。オーツまた飛んできよった。これはやっぱりかまってもらえないのが原因としか言いようがないわ。私も、もう無視するのはやめ。マキの御機嫌とりに集中し、ようやく、ニタツと笑い、食べようかな、という気になってくれたようだ。口を開けてくれた。マキの事が少しの間でも頭から離れていたそのことをマキに知らされ腹立たしく思った自分に腹が立つ。

マキちゃん、ごめんね。(菅田)

私は機会ある度に、落穂寮もコンピュータを導入するように提言を続けてきました。しかしそれに対する反応ははなはだ冷やかなものでした。

今の私達の生活の周囲にはコンピュータがいっぱい溢れていて、マイコン、パソコン、オフコン、などと様々な名称が氾濫しています。又それと同時に生活のあらゆる分野へ徐々に浸透しています。そしてこれが進行する反面にいろいろな心配も出てきました。つい先ほど、キャッシュカードを偽造しての大金の横領事件、神戸市で電話局のコンピュータの些細な故障で長時間に渡る通話不通など、便利な反面、故障したり使用法を誤るとたいへんなことになったりします。又「国民総背番号制」などといわれていますが、プライバシーを特定機関に集中管理し、事務処理を簡素化しては、などと叫ばれたりしてコンピュータの浸透は止まるところを知らぬ勢いです。

## コンピュータの受難

コンピュータに冷淡になるのでしょうか。その反応をみますと、

第一 職員数が三〇名足らずの

所にコンピュータの導入など不必要。人手でたかさんだ。

第二 コンピュータの指令通りに人が働かせられるか否か。

以上の二点に問題が絞られるようです。これらはもっともなことで反論の余地はありません。

しかし、それでも私達はコンピュータから目をそらすことができないのです。むしろ私はコンピュータの使い方を真剣に研究しなければならぬと考えています。それは次の様な事柄です。

## お金持ちのムービー

手塚治虫の作品「火の鳥」の中にムービーと名付けられ、意志は持っているが形を持たぬ生物が登場する物語があるのをご存知の方もあるでしょう。この生物は人間の望みど通りに形が変えられる能力を持っています。ペットを希望すれば、アードルにもダックスフンドにも自在に「変身」してくれるのです。物語は主人公の少年のムービーが恋人に「変身」しこれが迫害を受け続け、最後に永遠の生命として一体化するという悲恋物語なのですが、私はコンピュー

タイがこのムービーと非常によく似ていると思うのです。

私達はコンピュータの開発によつてはどのような「変身」させられます。そして使い方を変えらると大へんな機械にもなり得ます。

それは、今日アメリカもソ連も莫大な研究費を注ぎ込んでこの開発にしのぎを削っています。現在コンピュータは欠かすことのできない戦略兵器として「変身」しているのです。これはまさに「お金持のコンピユータ開発といえるでしょう。私達残念ながらこの開発を覗くことが許されません。

コンピユータは、難解な計算をたちどころに済ませたり、大量な情報をただちに処理したり正確に記憶したりします。このように妙に人間の脳に似た働きをするところから、人工頭脳だとか電子頭脳だとかいわれています。先ほどムービーのことを述べましたが、コンピュータの波が浸透

することによって変身自在です。翻訳機にも軍事兵器にも入力の情報次第なのです。そして入力された情報だけの判断しかできません。お金持は自分達に都合のいい情報を入力してコンピュータに判断させます。きっとお金持はコンピュータが判断したのだから間違いないと主張するでしょう。私達はこの功妙な落とし穴に気付かぬ場合が多いのです。当面する問題について判断させることが適当かどうか、私達は注意を怠ることができません。そして、お金持の主張に反撃を加えるにはコンピュータの機能の限界を見破る以外にないのです。

又コンピュータを畏怖しなければならぬ点として、その働きが表面に現れていないで潜在していることが挙げられます。私達の身のまわりには、気付かぬ所や、知らぬ所でコンピュータの波が浸透して

して社会問題となるよりもずっと恐ろしいことに思えるのです。これは知らず知らずのうちに泥沼へ足を突込み、気付いた時には抜き差しならぬことになるかもしれせん。コンピュータの潜行性は恐れて余りある事ではないでしょう。

以上述べたような所から、コンピュータを白日のもとにさらけ出さなければならぬと思います。私達はもはや、コンピュータに無関心ではいられなくなっています。もっと冷静にコンピュータの生活の中への浸透を考えなければならぬ時になっていきます。そして私達は、私達による、私達のためのコンピュータを作り出さなければなりません。お金もなければ、知恵もない私達です。しかし本当に私達の生活にはどんなコンピュータが必要なのか、知恵おくれや、様々な障害を持った人達のためにどのような使い方があのか、真剣に時間をかけて研究する必要があります。

私達のコンピュータ  
以上述べたような所から、コンピュータを白日のもとにさらけ出さなければならぬと思います。私達はもはや、コンピュータに無関心ではいられなくなっています。もっと冷静にコンピュータの生活の中への浸透を考えなければならぬ時になっていきます。そして私達は、私達のためのコンピュータを作り出さなければなりません。お金もなければ、知恵もない私達です。しかし本当に私達の生活にはどんなコンピュータが必要なのか、知恵おくれや、様々な障害を持った人達のためにどのような使い方があのか、真剣に時間をかけて研究する必要があります。

### 私達のコンピュータ

以上述べたような所から、コンピュータを白日のもとにさらけ出さなければならぬと思います。私達はもはや、コンピュータに無関心ではいられなくなっています。もっと冷静にコンピュータの生活の中への浸透を考えなければならぬ時になっていきます。そして私達は、私達のためのコンピュータを作り出さなければなりません。お金もなければ、知恵もない私達です。しかし本当に私達の生活にはどんなコンピュータが必要なのか、知恵おくれや、様々な障害を持った人達のためにどのような使い方があのか、真剣に時間をかけて研究する必要があります。

(山下)

### そえがき

▼春先、野に畑に薄紫色の小花を付け、いたいけなく咲いていたイヌノフグリが、今では草むしりに汗するほど、大きくなっています。今どき樹木や草花にとつて最も成長



がはなはだしい時期らしく、それらの勢いのよさに驚き、畑作りを途方にくれさせています。▼増田寮長のはじめのことばは糸賀著作集に触れて書いておりますが、創世期の近江学園と糸賀先生との直接的な触れ合いに、今の私達はすだれごしに情景を眺めているようなもどかしさを感じています。増田寮長は糸賀先生の部下として働いてこられました。増田先生は深いしわがしきで「糸賀先生」といわれますが、私達にとつては、糸賀先生は過去の歴史上の人物ですから敬称などつけない。「糸賀一雄」です。この主張に世代の断層として糸賀先生はこれを草葉の蔭で苦笑されるでしょうか。占領体制下に軍への抗議声明である「カイズ少佐」への書簡にうかがえる勇敢さ、堂々と張られた論陣は、私達に今日の問題として何か語られているようです。

(山下)